

令和8年産 美里地区の稲作情報

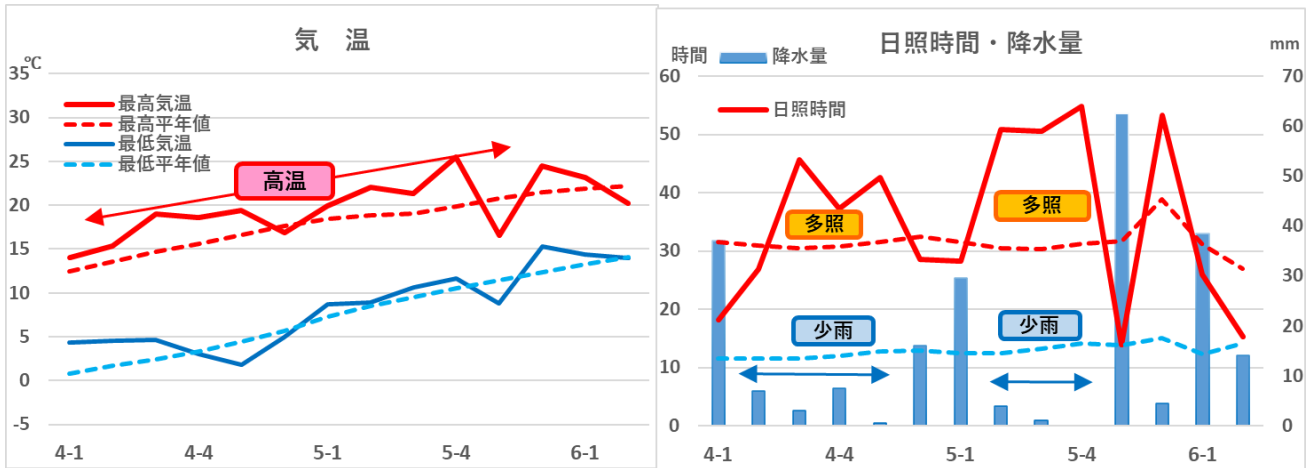
宮城県美里農業改良普及センター 第2号 令和8年6月15日発行

TEL:0229-32-3115

<https://www.pref.miyagi.jp/site/misato-index/>



1. 気象経過 (4～6月上旬、アメダス鹿島台)



- ・4～5月の平均気温は平年を上回りました。5月下旬は曇りや雨の日が多く、低温の日もありました。
- ・4～5月の日照時間は平年並みから多く、降水量は平年並みでした。
- ・強風の日があり、ハウスの被害や農作業への影響がみられました。

2. 生育経過

表1 田植状況

		始期 (5%終了)	盛期 (50%終了)	終期 (95%終了)
管内	本年	5/5	5/12	5/20
	前年	5/6	5/12	5/20
	平年	5/4	5/11	5/19
県全体	本年	5/5	5/12	5/24
	前年	5/5	5/12	5/24
	平年	5/3	5/11	5/22

※管内および県全体の平年値は過去5か年の平均値。

- ・田植盛期は5月12日でした。近年の高温傾向等から晩期移植や育苗期間短縮の傾向がみられます。
また、5月上旬は降雨、強風の日が多く、田植えの進捗に影響したものとされます。
- ・3月下旬～4月上旬播種の一部では、低温の影響で出芽に時間を要しました。出芽後の病害の発生や、苗の徒長などは比較的少なく、おおむね健苗が育ち、田植え後の活着は順調でした。

表2 生育調査ほ等の生育状況

							6月10日調査結果				
調査地点	品種	区分	田植 (播種)日	栽植密度 (株/㎡)	植付時莖数		草丈 (cm)	莖数 (本/㎡)	葉数 (枚)	葉色 (SPAD値)	
					(本/株)	(本/㎡)					
移植	田尻 (桜田 高野)	ひとめ ぼれ	本年値	5月10日	19.8	4.4	87.1	26.3	324.7	6.4	44.3
			前年値	5月3日	16.9	4.8	80.4	30.0	280.9	6.4	41.6
			平年値	5月4日	16.6	4.9	81.7	27.9	250.3	6.5	41.0
			前年比・差	+7	117%	93%	108%	88%	116%	0.0	106%
			平年比・差	+6	119%	89%	107%	94%	130%	▲0.1	108%
	鹿島台 (広長)	つや姫	本年値	5月14日	15.6	4.1	64.0	24.8	96.7	5.2	33.4
			前年値	5月15日	15.8	5.6	88.5	25.9	105.9	5.5	30.8
			前年比・差	-1	99%	73%	72%	96%	91%	▲0.3	108%
	南郷 (和多 田沼)	金の いづき	本年値	5月17日	18.2	-	-	27.7	107.4	5.8	35.1
			前年値	5月19日	16.8	3.7	72.9	25.6	67.2	4.8	32.7
			平年値	5月10日	16.2	3.9	62.2	27.2	143.2	6.3	36.8
			前年比・差	-2	108%	-	-	108%	160%	1.0	107%
平年比・差	+7	112%	-	-	102%	75%	▲0.5	95%			
乾田 直播	小牛田 (北浦)	萌え みのり	本年値	3月22日	-	-	-	16.8	73.3	5.2	-
			前年値	4月7日	-	-	-	26.6	133.3	3.7	-
			前年比・差	-16	-	-	-	63%	55%	1.5	-

※平年値は過去5年間の平均値。つや姫、萌えみのりはR6年からの調査。
※金のいづきは6月11日調査。

- ・ひとめぼれ調査ほでは、草丈は平年よりやや短いものの、莖数は平年を大きく上回る生育となっています。
- ・つや姫、金のいづきは、田植え後の低温の影響により、平年・前年より生育量はやや少なめです。

3. 今後の栽培管理

(1)水管理

分けつを促進させる水管理を実施しましょう

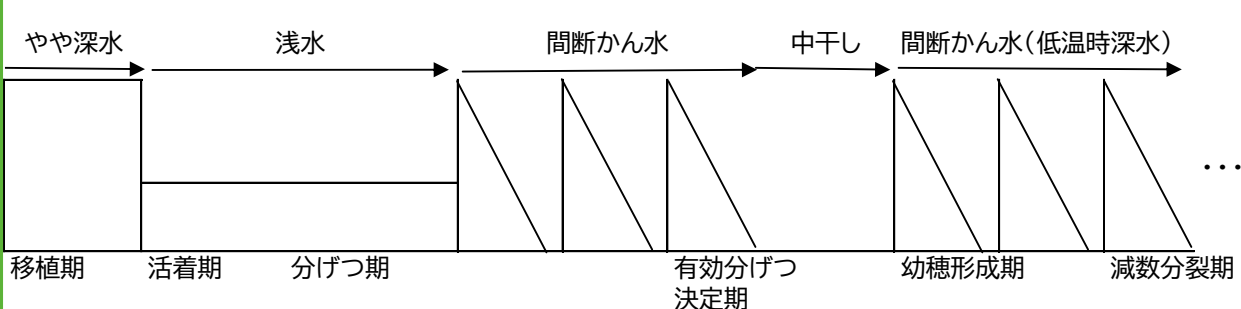
水温や地温の上昇を図るため、水深 2～3 cmの浅水または間断かん水とします。

気温の上昇とともに、ガスが発生して生育が阻害される場合があります。水田に足を入れたときに「ボコボコ」と泡が出たり、下葉が赤くなるなどの症状が見られたときは、落水して溝切り、飽水管理(水田内の足跡に水が無くなったなら入水し、表土が十分湿ったら落水する管理)を行いましょう。

<ガスが発生しやすいほ場>

- 稲わら、堆肥を多投
- 水保ちが非常に良い

慣行水管理体系 (田植え～出穂前)



※ 水管理については、通水状況に応じて可能な限り実施してください。

(2)いもち病対策

・早急に残苗を処分しましょう

まだ、ほ場に残苗が見られます。補植が終わり次第、土中に埋めるなどして処分しましょう。畦畔の草刈りの際などに見回り、早期発見・早期防除に努めましょう。

・いもち苗の予防防除を行いましょ

東北南部の平年の梅雨入りは6月12日ごろですので、例年では、6月中旬以降にいもち病の感染好適条件が多く出現しています。

予防剤は、感染前に散布すると効果的です。一般に、感染好適条件の出現から7~10日で葉いもちの病徴が見られるようになります。箱施用剤による予防防除を行っていない場合や、特にいもち病に弱い品種(「金のいぶき」など)を作付けしている場合は、水面施用剤を防除適期(6月中~下旬)に散布しましょう。

(3)雑草対策

残草が目立つ水田では、中期・後期除草剤による追加除草を行いましょ。

イヌホタルイ、ノビエ等の水田雑草が残草している場合は、斑点米カメムシ類(特にアカスジカスミカメ)の水田への侵入や斑点米被害を助長します。雑草の穂が出る前の7月上旬までに除草を行ってください。

(4)初期害虫防除

・箱処理剤を使用しなかったほ場、直播栽培において種子塗抹や播種同時処理による殺虫剤処理を行っていないほ場の入水後には、イネドロオイムシなどの初期害虫の発生が見られる場合があります。要防除密度に達する場合は適用薬剤で防除してください。



図 イネドロオイムシの卵
(宮城県病害虫防除所 HP より)

要防除密度(イネドロオイムシ)

侵入盛期(平年:6月第1半旬)の成虫密度:100 株当たり 25 頭

産卵盛期(平年:6月第2半旬)の卵塊密度:100 株当たり 80 個

農薬危害防止運動実施中!

宮城県では、令和8年6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょ。

- ① 農薬容器のラベルをよく読みましょ
- ② 土壌くん蒸剤を使用した後の適切な管理をしましょ
- ③ 住宅地等で農薬を使用する際には、周辺への配慮及び飛散防止対策をしましょ
- ④ 農薬の保管管理を徹底しましょ